

## 戦火のなかの子どもたち

年 組 番 名前

長野県にゆかりのある絵本画家いわさきちひろが亡くなって、今年で50年です。最後の絵本となった「戦火のなかの子どもたち」を取り上げた、コラム「斜面」を読み取りましょう。

① 1972年に開かれたグループ展に出品されたちひろの作品の前で、編集者の小西正保さんが声もなく立ちつくしたのは、なぜですか。

② 「時を経た二つの戦争」とは、何ですか。

③ ちひろは「戦火のなかの子どもたち」で、最後に何と書き添えていますか。

④ ちひろは、どんな焦燥感が募り、病を押して「戦火のなかの子どもたち」を作り上げたのですか。

⑤ コラム「斜面」の筆者は、どんな感性を「持ちたい」「大切にしたい」と述べていますか。

## 斜面

2024.8.8

瞳から光が消えうせている少女―。1972年に開かれたグループ展に、いわさきちひろは3枚の絵を出品して

いた。その前で編集者の小西正保さんは声もなく立ちつくしたという。ベトナム戦争の中を生きる子ども、一目でわかった◆絵本にしたいと申し出た。「戦火のなかの子どもたち」(岩崎書店)の制作はここから始まる。ちひろは創作を進め、長男の松本猛さんと19点を選んで本を構成した。言葉を添えたページ。言葉のないページ。めぐるたび、込めた思いが胸に迫ってくる◆火の海の中を逃げた東京の空襲の記憶も描いた。時を経た二つの戦争は一つに重なっている。実際にベトナムの戦場にくる。実際にベトナムの戦場にくる。子どもことはわかる。へそのあどけない瞳やくちびるやその心までが、世界じゅうみんなおなじだからなんです。最後にそう書き添えている◆ちひろが55歳で亡くなって、きょうでちょうど50年になる。73年9月に出版された「戦火の―」が完成作としては最後の絵本となった。急がなければベトナムの子たちがみんないなくなってしまうのでは…。そんな焦燥感が募り、病を押して作り上げた◆パレスチナの戦場で犠牲になった児童、生徒が1万人を超えたという。そこで暮らしている子がいる。心はどれほど傷ついているだろう。目の前のわが子や孫、近所の子と「おんなじ」子ども心から思える感性を持ちたい。大切にしたい。ちひろが愛した信州できょうを生きる一人として。

(2024年8月8日・1面&lt;コラム斜面&gt;)

# 戦火のなかの子どもたち

## 解答例

年 組 番 名前

長野県にゆかりのある絵本画家いわさきちひろが亡くなって、今年で50年です。最後の絵本となった「戦火のなかの子どもたち」を取り上げた、コラム「斜面」を読み取りましょう。

① 1972年に開かれたグループ展に出品されたちひろの作品の前で、編集者の小西正保さんが声もなく立ちつくしたのは、なぜですか。

【解答】 (瞳から光が消えうせている少女が、) ベトナム戦

争の中を生きる子だと、一目でわかったから

② 「時を経た二つの戦争」とは、何ですか。

【解答】 太平洋戦争とベトナム戦争 (順不同)

③ ちひろは「戦火のなかの子どもたち」で、最後に何と書き添えていますか。

【解答】 そのあどけない瞳やくちびるやその心までが、世界じゅうみんなおなじだからなんです

④ ちひろは、どんな焦燥感が募り、病を押して「戦火のなかの子どもたち」を作り上げたのですか。

【解答】 急がなければベトナムの子たちがみんないなくなってしまうのでは…

⑤ コラム「斜面」の筆者は、どんな感性を「持ちたい」「大切にしたい」と述べていますか。

【解答】 戦鬪で犠牲になった児童、生徒が1万人を超えたというパレスチナで暮らしている子が、目の前のわが子や孫、近所の子と「おなじ」子だと心から思える感性